

平成24年度事業報告の概要

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

1 概況

当協会の本年度事業は、世界的な経済状況の低迷が長期化する中、中国及び韓国との関係悪化による我が国経済への影響が発生するなど、大変厳しい経済状況が続き、ラジコン業界も例外でなく大変厳しい1年であった。

2.4GHz帯ラジコン装置の登録事業については、上空用が当初予想よりも若干上回ったほか、上空以外用が当初の予想を大幅に上回ったため、登録事業収入は前年度に比べ大幅な増収となった。

一方、ラジコン用発振器の標準規格適合証明事業については、当初予想よりも大幅に下回ったが、証明・登録事業収入としては前年度に比べて増収となった。

ラジコン操縦士登録事業については、新規登録者が前年度に比べ若干増加したが、更新登録者については前年度に比べ減少したため、ラジコン操縦士登録事業収入は前年度に比べ減収となった。

インストラクター制度については、8年を経過しインストラクターの合格者も延べ496名となり、地域のラジコン愛好家に定着しつつある状況である。

しかし、インストラクター登録模型店や受講者数を見るとそれほどの伸びが見られず、今後、制度の周知や見直しなどにより受講しやすい環境作りが課題となっている。

また、一般財団法人移行に当たって策定した公益目的支出計画の対象である安全環境対策事業の円滑な推進に努めた。

2 事業実施状況

(1) ラジコン用発振器の標準規格適合証明事業

本年度の事業計画では、第1種プロポ250台、第2種プロポ2,000台の計2,250台の適合証明試験を見込んでいたが、試験した台数は、第1種プロポ436台、第2種プロポ890台の計1,326台となり、収入は大幅な減収となった。

(2) ラジコン用装置の登録事業

本年度の事業計画では、上空用17,000台、上空以外38,000台の計55,000台の登録を見込んでいたが、登録した台数は、上空用18,246台(伝送用1,410台)、上空以外76,834台の計95,080台となり、上空用は当初見込みより若干の増、また上空以外用は約2倍増となったため収入が前年度に比べ大幅に増加した。

(3) ラジコン操縦士登録事業

新規登録1,998名、更新登録7,463名、合計で9,461名と対前年度10,253名に比べ少し減少したため、事業収入は減収となった。

また、産業用ラジコン操縦士登録は、新規26名、更新27名の合計53名となり昨年を若干上回った。

(4) 安全環境対策事業

ア ラジコンインストラクター制度の推進

(ア) 認定試験実施状況等

本年度は、全国9地区(北海道、福島県、千葉県、群馬県、岐阜県、兵庫県、鳥取県、熊本県、沖縄県)で認定試験及び技術指導講習会を開催を予定したが、11月17日に開催予定の沖縄県については、開催場所の確保ができず中止した。

実施結果は、認定試験の受験者数18名、合格者数20名(飛行機:11名、ヘリコプター8名、グライダー1名)であった。

また、認定試験に併せて技術指導講習会を開催し、受講者は59名であった。

(イ) 認定登録状況

平成24年度末現在の認定登録状況は、インストラクター登録模型店74店、認定登録者数139名(延べ192名:飛行機96名、ヘリコプター80名、グライダー16名)である。

イ 電波周知説明会

平成24年10月錦糸町「すみだ産業会館」で開催された『ラジコンホビショー2012』に併せて、登録模型店や一般愛好家を対象に『電波周知説明会』を開催した。

講師及び講演内容等は次のとおり。

①「GPS付制御装置技術の現状について」

(株)ケイアンドエス 代表取締役社長 菅木 紀代一

参加者 : 登録模型店 32名、メーカー等 5名 合計 37名

ウ 飛行場支援

公共的な競技場等への支援については、一宮フライング飛行場(一宮フライングクラブ 会長 林 幸男)に支援を行った。

エ こども模型教室

(財)日本航空協会が主宰する「こども模型教室」に支援を行った。

こども模型飛行機教室が、全国20カ所で開催され、約1,000名が参加した。(平成24年度「こども模型飛行機教室」事業報告より)

オ 日本科学模型安全委員会へ業務委託

安全環境対策の一環として、日本科学模型安全委員会に業務委託した。